

<<予防接種を受ける前に 必ずお読み下さい>>

高齢者帯状疱疹定期予防接種説明書

1 帯状疱疹とは

帯状疱疹は、過去に水痘にかかった時に体の中に潜伏した 水痘帯状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経支配領域に沿って、典型的には体の左右どちらかに帯状に、時に痛みを伴う水疱が出現する病気です。合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る「帯状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすこともあります。

帯状疱疹は、70 歳代で発症する方が最も多くなっています。

2 対象となる方

- ① 年度内に 65 歳を迎える方
- ② 60～64 歳でヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害があり日常生活がほとんど不可能な方。
- ③ 令和 7 年度から令和 11 年度までの 5 年間の経過措置として、その年度内に 70、75、80、85、90、95、100 歳（※）となる方も対象となります。 ※ 100 歳以上の方については、令和 7 年度に限り全員対象となります。

3 帯状疱疹ワクチンとは

帯状疱疹ワクチンには生ワクチン（阪大微研：乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン®」）、組換えワクチン（GSK 社：シングリックス®）の 2 種類があり、接種回数や接種方法、接種スケジュール、接種条件、効果とその持続期間、副反応などの特徴が異なっていますが、いずれのワクチンも、帯状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。

	生ワクチン（阪大微研）	組換えワクチン（GSK 社）
接種回数（接種方法）	1 回（皮下に接種）	2 回（筋肉内に接種）
接種スケジュール	—	通常、2 か月以上の間隔を置いて 2 回接種 ※ 病気や治療により、免疫の機能が低下したまたは低下する可能性がある方等は、医師が早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔を 1 か月まで短縮できます。
接種できない方	病気や治療によって、免疫が低下している方は接種出来ません。	免疫の状態に関わらず接種可能です。
接種に注意が必要な方	輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後 3 か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後 6 か月以上置いて接種してください。	筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方は注意が必要です。

4 帯状疱疹ワクチンの効果

		生ワクチン（阪大微研）	組換えワクチン（GSK 社）
帯状疱疹に対するワクチン効果（報告）	接種後 1 年時点	6 割程度の予防効果	9 割以上の予防効果
	接種後 5 年時点	4 割程度の予防効果	9 割程度の予防効果
	接種後 10 年時点	—	7 割程度の予防効果

※ 合併症の一つである、帯状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後 3 年時点で、生ワクチンは 6 割程度、組換えワクチンは 9 割以上と報告されています。

5 帯状疱疹ワクチンの安全性

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、生ワクチンについては、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎が、組換えワクチンについては、ショック、アナフィラキシーがみられることがあります。接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

主な副反応の発現割合	生ワクチン（阪大微研）	組換えワクチン（GSK 社）
70%以上	-	疼痛
30%以上	発赤	発赤、筋肉痛、疲労
10%以上	そう痒感、熱感、腫脹、疼痛、硬結	頭痛、腫脹、悪寒、発熱、胃腸症状
1%以上	発疹、倦怠感	そう痒感、倦怠感、その他の疼痛

*ワクチンを接種した部位の症状 各社の添付文書より厚労省にて作成

6 他のワクチンとの同時接種・接種間隔

いずれの带状疱疹ワクチンについても、医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザワクチンや新型コロナワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチン等の他のワクチンと同時接種が可能です。

ただし、生ワクチン（阪大微研）については、他の生ワクチンと 27 日以上の間隔を置いて接種してください。

5 予防接種を受ける前に

1) 一般注意

予防接種について、気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に医師に相談しましょう。

予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。基本的には、接種を受けるご本人が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

2) 予防接種を受けることができない人

- ①明らかに発熱のある人（一般的に、体温が 37.5℃を超える場合）
- ②重い急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③带状疱疹予防接種に含まれる成分によって、接種後 30 分以内にひどいアレルギー反応（全身のじんましん、顔の腫れ、呼吸困難、嘔吐、血圧の低下など）を起こしたことがある人
- ④以前带状疱疹予防接種を受けた時に、接種後 2 日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーを疑う症状が見られた人
- ⑤本人の接種希望の有無が確認できない場合
- ⑥その他、医師が不適合と判断した場合

3) 予防接種を受けるに際し、担当医師との相談が必要な人

- ①心臓病、じん臓病、肝臓病や血液疾患、その他慢性疾患で治療を受けている人
- ②予防接種で接種後 2 日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーを疑う異常が見られた人
- ③今までに、けいれんを起こしたことがある人
- ④今までに、免疫状態の異常を指摘されたことがある人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人

8 接種を受けた後の注意点

ワクチンの接種後 30 分程度は安静にしてください。また、体調に異常を感じた場合には、速やかに医師へ連絡してください。注射した部分は清潔に保つようにしてください。接種当日の入浴は問題ありません。当日の激しい運動は控えるようにしてください。

9 予防接種健康被害救済制度について

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、救済制度が設けられています。制度の利用を申し込む時は、予防接種を受けた時に住民票を登録していた市町村にご相談ください。

◆ ご不明な点は お問い合わせください ◆

伊奈町健康増進課（保健センター） 電話 720-5000

平日：8時30分～17時15分（土日祝日を除く）